

山行NO NO. 1781
日時 2018.03.11(日) 午前嵐・午後無風快晴
山域 檜洞丸(1600m)・小笄(こごうけ) 南西尾根
コース 西丹沢・自然教室7:20—小笄南西尾根—シカ柵8:20—縦走路10:10—檜洞丸11:15~30—石棚山稜1450m峰北西尾根—シカ柵・二箇所—東沢—自然教室15:10
標高差 上り 自然教室・約550m~檜洞丸1600m=約1050m
同角山稜分岐・約1435m~石棚山稜・1491m峰=約56m
下り 檜洞丸1600m~自然教室・約550m=1050m
藪漕度 上り 最後の岩場にバラッカジが少しあるのみ
下り 全くない
参加者 GT、KH=2名

下部は天国、上部は地獄の山

以前から気になっていた、檜洞丸・小笄のバリエーション、南西尾根に向かう。

長泉はまあまあの天気だったが、御殿場を過ぎると、暗雲が広がっていた。

しかし、降雨はなかった。

天気予報は午後から晴れなので期待して出発。

3月の悪天候なので、西丹沢自然教室の車は少なかった。

小笄南西尾根末端から上ろうかと思ったが、時間が掛かりそうなので、つつじ新道に行く。

20分ほどで尾根末端着。



尾根に入り30分上ると林道が現れる。林道はつつじ新道下部に伸びている。つつじ新道で事故の場合、救助はこの林道を使うという。法面が厳しい上りなので、林道を100m進み、再び尾根に立つ。最初からイイ感じの尾根が続いていた。ただ、尾根は急だった。半端でない急登が続く。1時間ほどでシカ柵着。シカ柵には脚立が2基置いてあったが、越える必要はなかった。



尾根は更に急になった。だが、ブナが素晴らしい。素晴らしいブナ林が延々と続いている。丹沢には、まだまだ「凄いブナ」があるのだ。しかし、今回カメラを忘れたので、この景観を残せなかった。

尾根は標高1200m付近から急激に鎌首をもたげ、岩混じりになって来た。それでも最初は、まあまあだったが、犬越路からの縦走路直下は、慣れない方はビビる壁になった。ザイルが欲しい程ではないが、ルートを誤ると、進退が極まる可能性があった。

また、この頃、標高が更に上がり風が半端なく吹いて来た。西風がゴーゴーと唸っていた。しかも、強風と霧と低温で、霧氷がドンドン発達する。お蔭で、久しぶりにキレイな霧氷を眺められた。霧氷が出来る条件は、なかなか難しいらしい。最後の急登をこなし、縦走路に飛び出た。自然教室から3時間弱だった。



真ん中の尾根が小笄南西尾根

縦走路に出たが、檜洞丸まで案外長い。

上ったり下ったり、強風の中、地獄は続いた。霧氷が強風で飛ばされ顔にバシバシ当たる。

それでも最後の階段を済ませ、11時過ぎ頂上着。さすがに悪天候で登山者はチラホラ。

空腹で昼食にしたが、寒さに耐えきれず15分で下山。

手の指は、ギンギンに冷えて痛かった。

天気予報は午後から晴れ。良くしたもので下って行くと雲が切れ、薄日が射して来た。



霧氷が凄かった

気温も上がり、指は蘇生した。

石棚山稜分岐でつつじ新道に入る。

こちらは、つつじ新道ほど道は荒れていない。長いコースで登山者が少ないからだろう。

一気に下った所が、同角山稜分岐。数基のベンチがあった。

50mほど上り、1491m峰。この先が、1450m峰で下降する尾根の入り口。

だが、そこにはシカ柵が二重になっていた。

通常、登山道のシカ柵には、脚立があり乗り越せるように「配慮」がある。

シカ柵は約3m。しかも、どちらかというと、フニャフニャに出来ているので、取っ付いても案外簡単に乗り越せない。

周辺の立木を利用したり、何とか乗り越した。この作業で私はスパッツを痛め、相方はジャンパーを破損した。脚立を置かなければ、開閉ドアを設置してくれよです。

登山者が自由に歩けない山は何故かオカシイ。丹沢・ブナ党主、K氏に相談したがニベもなかった。

標高1450m峰北西尾根は前出の南西尾根に、勝るとも劣らない、素晴らしい尾根だった。

この尾根は初見だった。

ネットにも情報はなかった。だから、行く行かないは「自身の勘」「今までの経験値」しかない。

当たった時は、サイコー。外れれば、ガックリ。

しかし、不思議なもので今まで、大外れはない。

シカ柵を越えて一安心。陽光が更に注ぎ温かい。先ほどの昼食では、いかんせん空腹は満たされなかった。もう一度、ここで昼食とした。

しかし、この途方もない美しい尾根は一体何だろう。

1500mにも満たない山で、こんな景観があるだろうか。感動・感嘆・感心でした。



標高 1450m 峰・北西尾根

尾根は部分的に不明瞭な所もあったが、全体的は快適な尾根だった。

これもGPSのお蔭である。

現在は、何てイイ時代か。

昔は、2万5千図・高度計・コンパスを駆使した。ただ、基本はあくまでこれだ。

GPSは、電池が無くなれば、無用の長物なのだ。



標高 1065m 峰から岩混じりの尾根を下り、東沢に降りた。

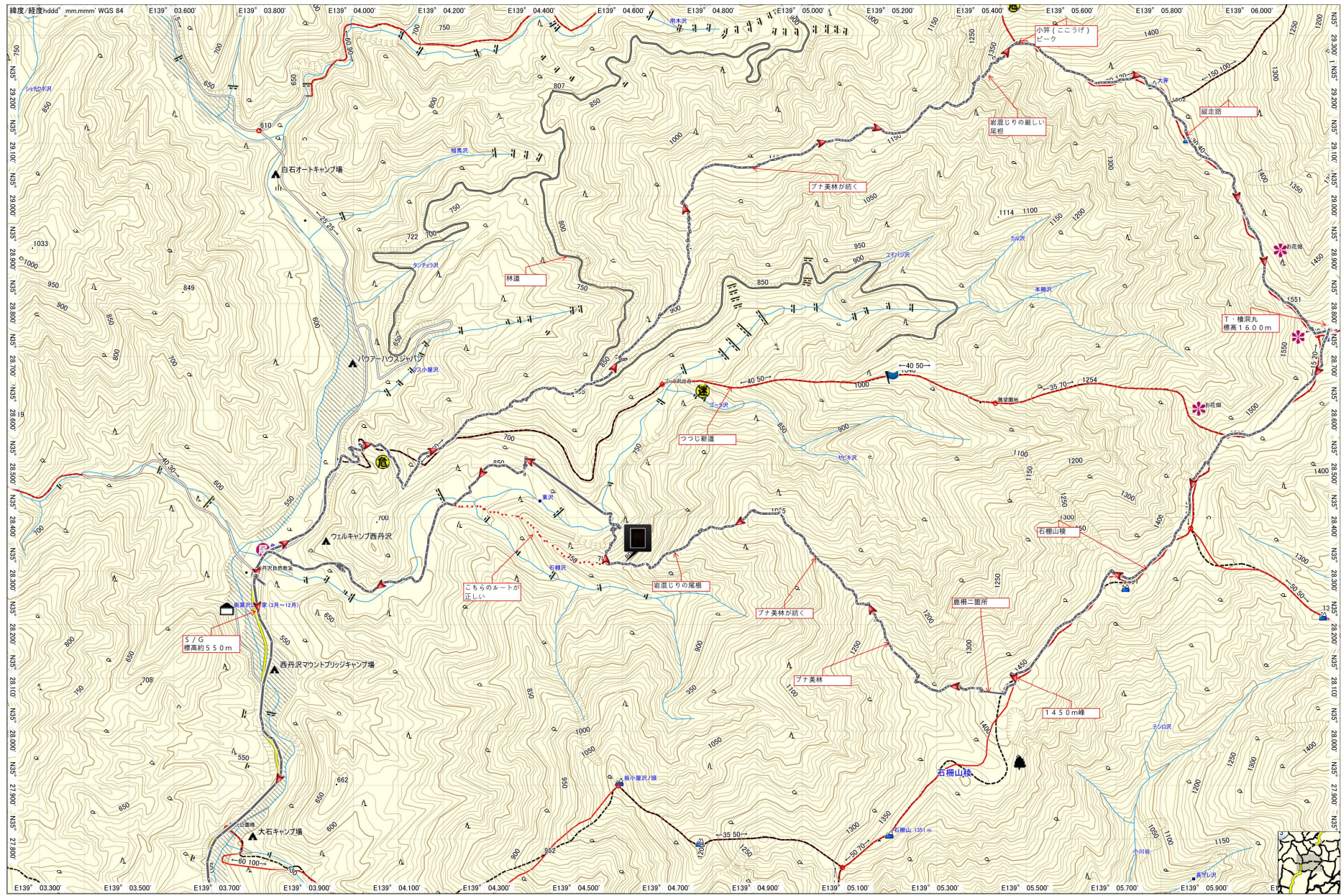
最低コルから東沢は急で悪かった。

ここは、最後まで尾根を進むべきだった。反省点でした。

東沢は2～3回、渡渉があったが、何とか渡れた。

今回も完全燃焼。サイコーの山・ルートでした。

(了)



Japan Topo 10M Plus V2
©2018 DeLorme, Garmin, IGN, NIPON

2018/03/12 8:54:27

GARMIN